

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年2月17日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691400115
法人名	医療法人浩愛会池田温泉クリニック
事業所名	グループホームまごころ
所在地	鹿児島県垂水市錦江町1-238 (電話) 0994-32-667
自己評価作成日	平成25年11月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年12月5日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

#### 基本理念

1 私たちは、ひまわりのように明るく、優しく、「真心」こめて一人ひとりの笑顔を支えます。  
2 私たちは一人ひとりに向き合い、気持ちに「寄り添い」ながら、住み慣れた家や地域での暮らしを切れ目なく支えていきます。  
3 私たちは、地域住民の一員として、地域社会との交流を図り、「支え合える」関係を築きながら、ご家族や地域社会との関係を調整する支援を行います。  
利用者様が自分の暮らしをどうしたいのか？自分の生活、人生をどの様にしたいと思っているのか、本人の望む暮らしを実現するために話し合い、まごころに入所して幸せだった、良かったと思える様に日々、思いやりのあるケアに努めています。職員同士チームワークがとれて意見を言い合えて、助け合ってケアに繁栄しています。

#### 【理念への思いと取り組み】

- ・『真心』『寄り添い』『支え合い』の言葉を含む理念を、玄関とフロア、ロッカールームに掲げ、毎日確認するとともに毎月のミーティングや運営推進会議においても理念の共有と取り組みに向けた話し合いが行なわれている。
- ・利用者一人ひとりに『真心』を持って接したいという思いは、利用者に接する中において言葉や態度に表れており、事業所の活動に参加してもらうのではなく、利用者自らが「取り組みたい」と思うような気持ちを持てる環境作りを大切にしたいと考えている。
- ・また、信頼関係を作るということは、日々『寄り添い』共に生活することで築ける関係と考え、利用者の立場に立ち、思いや意向を確かめ合うことに力を注いでいる。
- ・『支え合い』についても、入居後も馴染みの関係が途切れることなく続けられるよう、馴染みの人や場所の把握、訪問や面会の手助けをするとともに地区の保育園やボランティアグループとの交流など地域との関わりを積極的に行なっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	玄関とホール、ロッカールームに理念があり、申し送りやミーティングでポイントをおさえたりケアで気付いた時困った時に理念を共有している。	職員は毎日の申し送り時、運営推進会議やミーティング時に理念を確認しあい、共有を図り、常に理念に沿ったケアの実践に努めている。また、困難ケースが生じた時には必ず理念に立ち戻り、どう対処すべきかを考え、利用者の気持ちに配慮した対応を心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理美容、Aコープ、民生委員、社協、地域包括支援センター、市役所、ご家族、お友達の方々との交流がある。買い物にいたり散歩に出かけたりした時等地域の方々に気軽に声をかけている。	日頃から地域の清掃活動に参加したり、近隣の方と散歩や買い物に出かけた際に挨拶や会話をし親しくしている。また、事業所主催の夏祭りやクリスマス会等には、地域住民に参加を呼びかけて、保育園児や『おかめ会』による踊りを一緒に楽しみ交流を深めている。市が推奨している『介護予防ボランティア手帳』の活動にも積極的に取り組み、協力している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	人材育成の貢献として実習生の受け入れを行っている。困っている方が相談にみえた時認知症について助言を行っている。一般の方の見学や交流も受け入れています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政機関、民生委員、ご家族参加され、ホームの状況報告行いそこで意見、相談、質問等話し合い助言をいただきサービス向上に努めている。	定期的開催され、会議では事業所の取り組みや様子などの現状報告のほか、メンバーの意見を具体的に聞き取り改善に向けた話し合いをしている。傾聴の重要性を再認識し、コミュニケーション力向上に向けた取り組みや市の作成した『あんしんノート』の活用について話し合うなど有意義な会となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議ではサービスの実情を明細に報告し助言や協力をいただいている。又こちらから訪問しその都度ホームの状況を報告し協力関係を築く様に取り組んでいる。	行政職員とは運営推進会議や介護保険の更新時に顔を合わせており、困難ケースが生じた時等は訪問や電話で相談して助言や意見をもらっている。また、災害訓練や文化会館で開催される産業祭への参加や『あんしんノート』の活用など積極的に協力関係の構築に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内で身体拘束委員会があり毎月1回必ず参加しミーティングで職員全員で共有している。不穏、混乱、せん妄等の行動ある時気分転換を図り見守る。思いに寄り添い、傾聴、共感し何がそうさせているか職員間で話し合い拘束をしないケアに取り組んでいる。	契約書に身体拘束しないケアについて事業所の方針を明記している。マニュアルを作成しており、法人全体のミーティング、新人研修、職員研修等を通じて、身体拘束についての正しい知識と理解、身体拘束をしないケアについての共有を図っている。言葉による拘束にも気を配り、限られた職員数で連携を密にとり見守りを強化して、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での勉強会に参加している。全員参加できるわけではないので資料を持ち帰り共有行いミーティングで報告行っている。職員一人ひとりが理解を深め言葉使いに気をつけ身体言葉の虐待にならない様努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内での勉強会に参加している。ミーティングで報告行い職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前に説明を行い、退居や重度化、ターミナルケア等に関して医療連携体制などは特に重点をおいて丁寧に説明を行い理解、納得を得るように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の普段の言動に注目し記録をすることで職員間で話し合い考え共有しケアに活かしている。1対1で話し合う機会を作り意見・要望をプランに反映させている。	利用者の要望や意見については、日常のケアの中で会話や表情等から把握するように努め、家族からは訪問時や年2回の家族会等の機会に聞き取りをしている。出された要望は、ケアプランに反映させている。苦情や相談については『リスクノート』に記入し『リスク委員会』や『ミニリスク委員会』につなげ、法人全体の事案として職員全員で話し合い対応につなげている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃の職員の会話から不満・要望・意見を拾い出し工夫している。日頃からスキンシップをとり意見が言いやすいよう雰囲気作りを心がけている。	日頃のコミュニケーションの中で、またミーティング、個別面談時に意見を聞くようにしている。職員、管理者の関係は良好で、気軽に意見が言えたり、個人的な相談が出来たりしている。休憩時間の取り方や勤務交代等については、臨機応変に対応し、異動等については、管理者は職員の意見を聞き、法人全体に有益になるよう検討し調整している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	まめに職場へ足を運び現在の状況をきいてくれたり助言を下さる。研修参加も促し向上心をもって働ける様にしてある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々の能力に応じて新人研修や法人内の研修はもちろん外部研修にも積極的に参加するようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>介護支援専門員の交流機会や介護相談員との関係作り勉強会等で向上させる取り組みをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔であなたにあえてよかったという雰囲気でお茶をお出ししてゆっくり本人の思いをきく。緊張を和らげる努力をして安心の確保に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学して頂いたり、一緒にお茶を飲んでゆっくりと色々な思いをきいたり話しあっていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを確保しながら徐々にサービス利用につなげていける様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の家、自分の家族と思ってもらえるよう、洗濯物たたみや野菜の収穫、料理等教えてもらったりしている。暮らしを共にする関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも自由に出入りできるよう笑顔と挨拶はたやさない。相談・要望も即対応できるように努めており共に支えていく関係を徐々に作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や馴染みの場所へドライブに行ったり住み慣れたお家へご家族の協力ももらい帰ってみたりされる。馴染みの方が面会にもきて下さる。	基本情報にこれまでの馴染みの関係を記載し、行きつけのお店や美容室等に家族と協力しながら外出を支援している。また、隣接する小規模多機能ホームを利用している友人との交流の場を設けたり、住み慣れた自宅に帰る機会をつくるなど家族・知人との繋がりも大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士のテーブルの位置工夫をしている。環境の変化に気を付け一人ひとりが孤立せず楽しく会話できるよう職員も間に入ったりし、支え合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつまでも声を掛けやすいよう出会った時はやさしくねぎらいの言葉をかけ、相談がある時はのっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃、思いや希望を引き出せる様に会話、表情、観察に努めている。意思疎通の困難な方に対してご家族から情報をきき把握に努めている。	本人の思いや意向を契約時の聞き取りや日々の生活の中で把握するとともに思いをうまく表せない場合は家族から話を聞き、汲み取るようにしている。日常ケアの中で感じた思いや気付きを『連絡ノート』に記載し、朝夕の申し送り時に確認している。また、把握した内容はケアプランに結び付くようにまとめている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を把握するためご家族やその他関係者の方に情報をもらい現状把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり生活のリズムが違うので変化がないか		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々利用者の状態観察し会話しながらズレが生じてないか調整し、気づき、意見を申し送り、記録を行い家族の面会時に望まれることを聞いて本人のできること困っていること望むことおさえどころにしカンファで話し合い作成している。	把握した本人や家族の意向は、なるべくそのままの言葉で記載している。日々変化する意向についても詳細に支援経過に記入し、モニタリングを行ない、現状に則したプランになるよう見直し再作成している。プラン作成の過程では、本人のペースで生活でき、決して無理強いすることのないケアの実現を念頭に話し合いを繰り返し、本人や家族の意向を反映させたプラン作成に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイル記録に生活状況、本人の言葉や身体変化、受診結果を記入し、又排泄、バイタル表、ヒヤリハット、連絡帳にも記入して職員間で共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の都合により病院受診はホームで対応する時もある。医療連携体制が整っており定期往診もある。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の要望に応じてよりよく豊かな生活が送れる様に必要に応じて民生委員や消防の方々と協力しながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前に本人・家族に希望をきいており個々の主治医と相談できる環境にあり往診にきて下さる。緊急時、協力医療機関があり主治医との連携もすぐとれて家族の協力もえられる。	入居前からのかかりつけ医を把握し、家族や職員間で受診の支援を行なうなどかかりつけ医との関係が途切れないようにしている。月1回往診を受ける方もおり、定期的に受診することで経過が把握しやすい。また、受診時にはバイタル記録や業務日誌のコピーを持参し、受診の結果については介護記録等に記載し、職員全員で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状態やバイタル測定小さな変化がある時法人の看護師へ報告、相談し職員間で共有し必要があれば受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はお見舞いや物の補充等支援し、家族、本人の思いを聞いて相談員との情報交換に努めている。本人、家族の要望をききながら早期退院へ向け病院関係者と話しあっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族、本人に医療機関との連携も柔軟に対応できることを説明しご家族と本人から終末期のあり方について要望をきいている。重度化した場合に本人、家族の要望を主治医に報告し話し合い方針を共有している。	入所時に『ターミナル指針』について説明し、同意書に署名をもらっており、入所後も思いや意向に変化が生じていないか確認する機会を持ち、必要時には再度話し合い、同意を得ている。職員全員が重度化した場合のケアや緊急時の対応を確実にできるよう、職員一人ひとりに手順書を渡し、自信を持ってケアできるよう研修の機会を多く設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内でミニリスク・リスク委員会があり勉強会も行っている。その他、年3回消防の方々に協力をもらい心肺蘇生訓練やAEDの使い方等の指導も受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民、民生委員、消防の方々に協力をもらい年3回火災、水害等を想定した避難訓練、総合訓練を行っている。地域の方々も含めた緊急連絡網も作っている。	豪雨や落雷、夜間想定を含む災害訓練を年3回実施している。訓練は、近くのスーパーや企業の職員、また隣接する事業所と協力し合い実施することができた。また、避難経路のシミュレーションや心肺蘇生、AED講習等も行ない反復学習している。備蓄についても飲料水や米、業務用カレー等を十分な量確保している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけない様な態度、言葉かけ、声のトーンに気を付け接している。人格を尊重し気遣い、心遣いに努めている。	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけに気を配り、本人の思いを引き出すことが出来るような会話になるよう心がけている。個人のペース、周りの利用者への配慮も忘れず、お互いを尊重しあいながら生活出来るように見守り支援をしている。何事もまずは信頼関係を築くことを優先に考え、安心感を持ってもらうよう努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洗濯物のとりいれはさりげなく置いたり、本や週刊誌等を置き自己決定できるようにしてある。その人にあった声掛け、触れ合い会話を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースを守り共に行動したり共に楽しむようにしている。無理強いせず希望にそって買い物や散歩、行事の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出時は衣類をコーディネートしたり化粧を日課にされている方や入浴後に化粧水を使う方ご家族に協力をもらい好きだった洋服を持ってきていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園へいき野菜の収穫、その日とれた野菜を使い調理し、一緒に楽しく会話しながら食事をとっている。限られたかたのみ配膳下膳食器洗いを一緒に行っている。	買い物や食事の支度、調理の下ごしらえ等利用者と職員が一緒になって取り組み、同じ食事を会話を楽しみながら食べている。日曜日の昼食は、ホットプレートを使ってお好み焼や焼きそば等を目の前で作っており、日頃調理に参加されない方も調理の様子を見たりにおいを感じることで五感刺激になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分量を記入しトータルをだし確保できるように努めている。個々に合わせて栄養食品や、リンゴジュース、レモンティー、ポカリ、ゼリー等提供している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の希望にそって無理強いせず指示、見守りをしながら食後行っている。拒否がある方等時間をずらして行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用してタイマー誘導、声掛けし、立位困難な方は2人介助でトイレで気持ちよく排泄できるよう心がけている。その他わかりやすいようにトイレの目印を利用者様の目線に合うようにとりつけている。	日中は出来るだけトイレでの排泄を支援しており、本人や家族と話し合いリハパンツやおむつを外す努力をしている。また、これらをプランに組み込むことで関係者全員で情報を共有し、身体状況に応じた排泄支援に取り組んでいる。トイレ誘導については、排泄チェック表や表情、態度等様子から汲み取り、さり気なく声をかけている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の確保、オリゴ糖や牛乳等使用し腹部マッサージ、ウォシュレットを使い刺激したりしている。廊下を一緒に歩いてみたり入浴時にお腹をマッサージしたりしでないときは主治医に報告し指示をもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	バイタルチェック行い声掛けし本人の希望にそって無理強いせず支援している。基本は毎日だが本人の希望や体調を考慮し午前、午後にかけて入浴の支援を行っている。	毎日入浴でき、トイレの失敗の際にも随時入浴できるよう対応している。同性介助の希望がある場合もその都度対応している。入浴拒否がある場合は、ゆっくり時間をかけて誘ったりタイミングや声かけする職員を変えて促すなど変化を持たせて対応している。入浴後は、サイダーやリンゴジュース等提供し利用者に変喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音楽や室内温度、照明等その人に合わせて居室に限らずホールのソファや畳の部屋等も利用し余暇時間に安心して休息できるよう工夫している。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに処方箋をつづり確認に努めている。薬剤師からの説明もあり薬の変更や追加等があった場合に申し送りや連絡ノートを使い職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事出来ないことを日常生活の中からみだし行動を共にしながら楽しむ。洗濯物たたみや一緒に編み物や作品を作ったり野菜の収穫にいたり気分転換に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外でラジオ体操をしたりホーム周辺を散歩したり、近くにスーパーがあり買い物の支援を行っている。家族や地域の方々に協力をもらい遠足で道の駅や鹿屋バラ園等に出かけたりしている。家族との外出、外食、外泊支援も行っている。	一人ひとりの希望に沿って、日常的に散歩や近くのスーパーでの買い物、隣接する事業所に外出する支援を行っている。時にはドライブがてら遠出をすることもある。行事としては初詣や花見、バラ園に出かけたりしており、歩行の困難な方も法人のリフト車を使い、なるべく全員で楽しく外出が出来るよう調整し支援している。利用者の食べたいものに合わせて外食に出かけたりもしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時見守り、声掛け行い本人に支払いをまかせている。個々の力に応じてご家族と相談しお金を自己管理されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも自由に個々の能力に応じて電話支援行っている。本人自ら手紙を書かれた時切手を貼ってポストへ投函支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に応じてロールカーテン使用し障子を閉めたり、温度計の設置、食堂は天井も高く圧迫感がない。部屋には生活感がでるよう今迄使っていた物等もってこられ季節に応じて廊下やホールに利用者様と一緒に作った作品を飾っている。	玄関扉は3枚引き戸で開口部が広く、造りつけのベンチがあり、腰掛けて靴の脱ぎ履きができる。フロアの天井は高く、採光は十分にあり、ロールカーテンで室内の明るさを調整している。フロア内に和室があり、利用者同士で洗濯物を畳んだり、会話を楽しむ談話室として利用している。自律神経に優しいとされるBGMを流し、温湿度計を目安に冷暖房や加湿を調整しているなど、音や空調にも気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に思い思いに過ごせる様和室やソファの活用、音楽を聴いたり本を読んだり自室でゆったりと畑を眺めて過ごされる方もおり気兼ねなく過ごせる様工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族に相談し使い慣れた物、馴染みの物を持ってきていただいている。家族の写真や昔の写真飾ったりその人らしい部屋作りに心がけている。</p>	<p>テレビや時計、写真等馴染みの品を持ち込み飾っている。ベッドは備え付けだが、自宅で使っていた毛布や布団を持ち込むなど自宅での環境に近づける工夫をしている。居室のドアを開けた際にポータブルトイレが目につかないよう配慮し、掃除も職員が毎日行なうなど衛生的に保たれている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>障害物を取り除きできるだけ自由に自立して生活が送れるよう廊下には手すりを設置、トイレ、お風呂場、自室にはわかりやすいように目印をつけている。</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない